



人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。

マタイによる福音書 7章12節

2018年
創立140年

2018年(平成30年)
3月16日
第14号

梅花女子大学 チャペル・ニュース Chapel News

発行
梅花女子大学宗教部
〒567-8578
茨木市宿久庄2-19-5
072-643-6221(代)
072-643-8997
E-mail skb@baika.ac.jp
澤山記念館1階

「愛と平和・クリスマス」の祈り

学園長 近藤 十郎



て祈り、というものです。愛が歴史の中に全うされること、平和が世界に実現すること、そしてそのための祈りがまじめに、かつ永続的になされること、こうした課題が提示されたのです。

メリー・クリスマス！ クリスマスの祝福が、ここに集められた皆様方お一人ひとりの上に豊かに注がれますように祈らせていただきます。先ほどの御紹介の通り、私は本年4月よりこの梅花学園に招かれ梅花の枝の一つに加えられました。神様の御心と信じて、感謝しつつ日々を過ごしております。

聖書のテキストには、愛と平和へのメッセージが繰り返して語られ、読者や聞き手にあまねく問いかけられています。平和とは何か、どのような状態をもって平和なのか。愛は全うされるのか、何を求めて愛が完成されたというのか、これらのテーマは福音書のイエスの言葉だけでなく、聖書全体の中で追及されている重要なテーマです。残念なことに、私たちの現実の歴史は、どの課題を取ってみても、ネガティブな答えしか返ってきません。平和は実現していない、愛は常に未完成、そのために祈る祈りも決して真剣になさ

渴望しているということでしょうか。このような愛と平和を求め祈る心は、聖書の時代を生きた人々にとっても、緊急、喫緊の課題であり、テーマでした。このようなテーマの持つ重要な課題を見事に提示した物語の一つが、私たちのクリスマス・ストーリーです。飼う葉桶の中に眠る乳飲み子イエスの寝顔、微笑みの寝顔に目を留めてみましょう。母親に抱かれて安らかに眠る赤ちゃんの寝顔、やわらかい産着に包まれて微笑みさえ浮かべて眠る赤ちゃんの寝顔をイメージしてみてください。聖書の人々は、飼う葉桶に眠る乳飲み子のイエスに平和のシンボルとしての姿を描き出し、そこに永遠の平和が約束されていると証したのです。すやすやと眠りの中にある赤ちゃんの寝顔には、警戒心も敵意もなく、不信や懐疑の念もありません。安らぎの中にある赤ちゃんの笑顔は、人間の人工的な作為によつては創り出すことのできない、まさに神様の創造の業そのものを表象しています。大人の世界の醜悪な罵り合い、傲慢不遜、不敵な蔑み、敵を前提とした人間関係を表すような冷たさなどは、赤ちゃんの微笑みには全く無縁です。赤ちゃんの微笑みは、100%の信頼関係から出てくるものと言えるでしょう。なぜ、人は微笑むことができるのか。本物の笑顔は心の平安

が約束されるとき始めて可能になることを私たちは知っています。人と人との駆け引きやパワー・バランスによつては、平和は決して実現しないのです。敵を前提としない人間関係、警戒心やこだわりが支配する人間の世界には平和がありません。最近、「積極的平和主義」というような言葉が一部の人々の間で用いられているようですが、その言葉を初めて用いた人の発意から離れて、現実的、実現可能な平和という意味で、武力衝突を避けるためにはパワー・バランスを図ることも必要だ、という意味に誤解されているようです。何をもつて実現可能な平和を創り出せるというのか、もつと真剣に吟味する必要があるでしょう。

赤ちゃんの寝顔に表れる微笑みに、平和のシンボルを見ることができ、そして、ここにこそ平和がある、この笑顔を取り去つてはならない、と私は言いたいのです。飼ひ葉桶に眠る乳飲み子イエス、その微笑みに平和が溢れているのです。寝ずの番をしていた羊飼ひたちに主の天使が近づき、救ひ主の誕生が伝えられました。天使と天の大軍が高らかに賛美の歌を歌いました。その合唱は、地上のどのような聖歌隊、合唱団にも優る大合唱団に編成され、天地にとどろき渡る妙なる調べが辺りに一面に鳴り響きました。「いと高き

ところには栄光、神にあれ。地には平和、御心に適う人にあれ」(2章14節)と歌い上げられたのです。天使の吹き鳴らすラッパの響きと天の軍勢の歌声は、荒野野一帯に例えようのない美しいハーモニーを奏でたことでしょう。私の心のイマジネーションです。勇ましい軍歌ではなく、人間の世界を支配しがちな哀歌でもありませんでした。神を賛美する賛美の歌、人間の思惟の範疇を超えた安らぎと平和の歌が、高らかに美しく辺りにこだましたのです。

驚くべきことに、しかもこともあろうに、神様はその独り子を馬小屋に誕生させ、金銀や宝石を詠えたベッドではなく飼ひ葉桶に寝かせたのです。着せられた産着は柔らかな絹の産着ではなかったのです。誕生物語を描き出した福音書の著者ルカの筆致は、あまりにもチャレンジングなものでした。神様の独り子は、人間の思考領域を遙かに超えた時と場所に誕生し、神様独自のご計画に基づいた平和を約束されたのです。ネゴシエーション(交渉)やパワー・バランス論の上に立てられるような平和とは全く無関係な平和論、神のイニシアティブによつて創り出される平和が、ここに提示され、問いかけられているのです。

神の子の誕生は、ベツレヘムの町にあつたすべての宿から拒否され、

客間も用意されず、馬小屋の暗闇において実現しました。彼は人に受け入れられず、人間の世界の最も片隅の、不潔極まる馬小屋で生まれなければなりません。平和は、文字通りの意味で人間の世界の貧しさの不衛生、暗さの中から始まったのです。しかし、みどり児イエスは、その暗さの中で安らかな寝息を上げ、微笑んでいました。すべてを委ね切つて安らぎの中にある赤ちゃんの寝顔にこそ平和の原点がある、ということでしょう。100%の信頼関係、敵を前提にしない人間の世界の構築、不信と敵意、警戒心から全く解放された人間の世界の構築、これこそ私たち人間の世界に聖書の時代から問いかけてある最大の問いなのです。

このような平和論は、多くの人々にとつては受け入れがたく、非現実的な夢想論にすぎないでしょう。それほど現実の世界は甘くない、と言われることでしょうか。しかし、現実的な、実現可能な平和といったものを、果たして私たち人間が創り出せるのでしょうか。そのように自らを過信しがちな人間の愚かさ、ということも一方で謙虚に受け止めなければなりません。いったいいつの世に、人間の薄っぺらなヒューマニズムで理想的な平和国家を創り出すことができたでしょうか。ユートピア

の世界は、人間の歴史の中で実現したことは一度たりともなかったのです。16世紀のイギリスの思想家トーマス・モアは、そのような幻想的な平和論を痛烈に批判して、多少の皮肉を加えて「そのような場所はない」という意味のユートピア(Utopia)、一般に理想郷と言われる言葉を造語したのです。

私たちの平和は、聖書のルカが描き出したイエスの誕生物語において証しされたように、それを求める祈りにおいて実現される平和です。私たちの祈りは、それが神様の御心に適う限りにおいて、実現可能です。それがたとえ人間の思考範囲を超えた世界の祈りであつたとしても、神様のご計画であれば、必ず実現されるのです。人間の考える平和論と、私たちの信仰の世界、魂の領域においてとらえられる平和論と、いったいどちらが現実的か、実現可能性という点においてどちらが優っているでしょうか。私たちは敢えて、私たちの真摯な祈りの中から創り出される平和を、このクリスマスの礼拝において確かめ合ひたいのです。



「お言葉どおり」

日本基督教団梅花教会 牧師 後藤 聡



ルカによる福音書 1 章 26 ～ 38 節

梅花教会牧師の後藤です。皆さんの中には梅花中高の出身者もおられると思いますので、梅花教会の礼拝に来た方もおられることでしょう。

さて、梅花教会は 2017 年、創立 90 年を迎えました。梅花学園と梅花教会は名前を同じくしていることからもお判りのとおり、1878 年に創立した梅花学園が 50 年ほど経とうとした 1927 年（大阪から豊中市に校舎移転）に、その年から同志社大学・同志社教会の牧師に就任予定の、当時ハワイ・ヌアヌ教会牧師だった堀貞一牧師が関西に来られ、せっかくの機会だからと梅花学園で 3 日間にわたり「特別伝道集会」を開催したことが始まりです。

梅花学園は、日本で最初の「牧師」である澤山保羅が設立した「浪花教会」と「梅本町教会（現大阪教会）」の名前を取ったことはみなさんご承知の通りです。澤山牧師が設立した天満教会を加えた三教会の祈りによって、梅花学園は建てられたのです。これは、当時まだ十分に評価されなかった若き女性に対して、高度の、しかも最新の教育を施すためでした。まもなく創立 140 年になる梅花学園の歴史は、初期の小学校や戦後すぐの「男子学生受け入れ」など、今では想像もつかない歩みもありました。これらについてはまだまだ検証されなければなりません。

もちろん、学園では礼拝やキリスト教の授業が創立当初から行われていました。たぶん掘り起こすのは大変でしょうが、どういうカリキュラムであったか興味深いところです。その 1927 年 1 月 25 日から 3 日間、堀貞一牧師は梅花高等女学校で 4 回にわたり講演し、最終日には教員 7 人を含む 343 名が「キリストに従う決意」をし、洗礼をその場で

受けたのです。礼拝を中心とした信仰生活は教会でなされるべきとの理解から、学園は学校とは別組織として教会を設置しました。これが「日本組合梅花基督教会」として 1927 年 6 月 30 日に設立認可されました。以降、しばらくの間、梅花学園の宗教主任、校長が教会牧師の役割も担ったのです。ただ、343 名の新たな教会員に対して教会としてのフォローアップや交わり、奉仕などケアが十分だったかどうか、またご本人たちの信仰受容もいくつかの課題があり、卒業後教会とのつながりが希薄になる方もおられました。ともあれ、それまで学園の講堂でなされていた学校の礼拝と教会の礼拝堂でなされる主日の礼拝が、車の両輪のようになされていったのです。

戦後、1945 年 12 月、梅花学園は火災により建物や書類の多くを失いました。教会としてもその 343 名の名簿はもとより、それ以後の関係書類などもすべて焼失してしまいました。戦争中の空襲を乗り越えながら、貴重な資料を失ったことは本当に残念なことです。

1950 年ごろには、礼拝出席者も減少し、梅花教会は解散してはどうかとの議論さえ起こるようになってきました。戦後も、学園と教会はつか

ず離れずの関係で、それぞれに議論もさまざまにあったようです。1955 年、全面改築した教会堂が完成し、名実ともに自立した教会としての歩みが備えられたのです。

学校と教会との関係で、ぜひ覚えていただきたいことは、今、梅花女子大学茨木キャンパスで皆さんは学ばれていますが、この土地は後に梅花教会員となる田中格太郎さん・とらさんご夫妻の果樹園だった場所だということなのです。田中さんご夫妻は「ずいぶんご苦労をされ、それでもご自分の土地として果樹をそだてていました。その大切な土地を「神様のご用のために」と祈りをもって学園に献げられました。

これらの歴史は、学園が教会の祈りと不可分であったというこの証しです。他にも名前を上げることができませんが、創立以来、多くの人々の祈り、多くの宣教師たちの祈り、教職員、学生、あるいは困難な時の支えあう祈りがあつて、今があることは間違いないのです。教会には、今でもさまざまな同窓生やご家族から問い合わせや依頼の電話ががあります。特に人生の最後の場面を前にして、ご本人やご家族から牧師に祈ってほしいという電話が昨今ずいぶん多くあるのです。

クリスマスが迫っています。教会

の暦ではクリスマス前の4週を「待降節・アドベント」といいます。教会では毎週一本ずつローソクに火を点し、準備の確認をします。この時、私たちは与えられた聖書から、この時期のなすべきこと、考えるべきことを聖書から聞きたいと思えます。クリスマスは、私たち人間のための「救い主」、主イエスの誕生をお祝いする日であることはいまでもありません。神であり人であるイエスの誕生には、不思議な物語が語られます。

天使ガブリエルとイエスの母となるマリアの会話です。親類の高齢の女性エリサベトと、まだ結婚していないマリアに子供が生まれるということです。そんなことはあるはずがないと誰もが否定したくなります。聖書は、科学的に、人間の常識を問うものではありません。ですから、聖書にあるイエス物語、四つの福音書中、マタイやルカ福音書には少し「受胎告知」のことが触れられていますが、マルコ、ヨハネ福音書には出てきません。

それならルカはなぜこの物語を載せたのか、本当は何を言いたいのかが問題になります。ルカ福音書の冒頭、この文書がローマの高官と言われる「テオフィロさま」にあてて書かれています。聖書を知らない人物

に「神」、「神の国」、「神と人間との関係」、そして「主イエス」について説明しようとしています。今日皆さんが読んだ37節、38節がポイントです。そう、「神にはできないことは何一つない」のです。神とはそういう方なのです。けれども、それは必ずしも人間が思っていることではありません。何でもできる神様に「合格祈願」したので勉強しないでいいという話してはなりません。人間はこうなったらいいと神様に願いますが、本当に必要なことを、人間の思いを超えて神様はなさるのです。もしかすると、それは一見「不幸」なことかもしれませんが。真逆の望みだったかもしれない。それでも、後になって、神様が望んでおられたことはこういうことだったのかと気がつくこともあるでしょう。

それでも「神にはできないことは何一つない」のです。それを信じるのが信仰です。人間の願望をこえて神様は必要なことをなさってくださいなのです。それを否定したり、拒絶することも人間はできませんが、それでは神と人間の正しい関係とはいえない。マリアは「お言葉どおり、この身になりますように」と祈りました。神の出来事が、人間にとっては、一見受け入れがたいこと

であっても、あるいはそれが何かもわからないけれど、神のご意志を尊重します、神に従いますという信仰の表明です。

クリスマス、早く、今すぐに来たいとも思いますが、アドベント、4週にわたって「待つ」のはそのクリスマスへの準備が整っているか、何か忘れていないか、文字通り主イエスの到来を待つにふさわしい準備がなされているか、点検の時です。教会でも、この学園の礼拝堂でも、飾りは大丈夫か、案内は出来ているか、印刷物、ローソク

は、など4週間確認するのです。そして希望を抱きながらワクワク、ドキドキしながら待つことの喜びを感じたいと思います。

先に、梅花学園と梅花教会の歴史を見ました。これまでも梅花学園には困難があり、今後も厳しい時代、社会を迎えるかもしれません。それでも、多くの方々から常に折られていられることを申し上げました。不安ととまどいの中にあつて喜びと希望がありますように祈る、つまり神と人間の関係を築き上げたいものです。良いクリスマスをお迎えください。

2017年(平成29年)度 献金及び献品報告

いつも宗教部の諸活動にご協力頂きましてありがとうございます。今年には下記の熊本地震・東日本大震災の被災地・施設・団体に、集めた献金・献品を送付いたしました。ご協力いただきました皆様心より感謝し、ご報告申し上げます。

《献金送付先》

前期献金	
・「平成28年熊本地震」の義援金	20,000円
・東日本大震災の義援金：エマオをとおして送金	10,000円
・パンダ園	17,500円
・止揚学園	17,500円
・救世軍希望館	15,000円
・大阪水上隣保館	15,000円
・レバノンホーム	15,000円
・振込手数料(郵便局)	320円
合計	110,320円

後期クリスマス献金	
・「平成28年熊本地震」の義援金	15,000円
・東日本大震災の被災地：エマオをとおして送金	15,000円
・止揚学園	20,000円
・救世軍希望館	20,000円
・釜ヶ崎医療連絡会議	10,000円
・レバノンホーム	16,000円
・振込手数料(郵便局)	240円
合計	96,240円
総合計	206,560円

《献品》 救世軍希望館へ持参 ※炊き出し用として

【食品】	米 40kg100g / 国内産十割そば 200g×2袋 味付のり2缶9袋 / かつお梅230g 1袋
【日用品】	タオル 白1枚、ピンク2枚
日本キリスト教海外医療協力へ郵送	
【海外国内切手】	1Kg288g 【外国コイン】 778g
【外国紙幣】	28枚

以上

学園クリスマス標語
 —2017年度 クリスマス標語—
 「愛と平和・クリスマスの祈り」



アドベント点灯式
 2017年11月27日(月) 学生会館前



アドベント礼拝
 2017年12月11日(月) 澤山記念館 礼拝堂



クリスマスイブニング2017
クリスマス礼拝
 2017年12月16日(土) 澤山記念館 礼拝堂



梅花女子大学 クリスマス礼拝
 2017年12月18日(月) 澤山記念ホール



「神の愛を思い出して」

日本基督教団浪花教会 牧師 山口 恒



皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは様々な思いを持って梅花女子大学・大学院に入学されたと思います。そしてそれぞれ年数は違いますが梅花での時を過ごされて、いよいよ新しい道を歩み出す時が来ました。これから新しい歩みを始める皆さんの上に、神様の祝福が豊かにありますようにお祈りいたします。

さて、この原稿を書いているのは1月なのですが、今年度も冬のラグビーシーズンが終わりました。私は高校生の時に3年間ラグビーをしただけなので偉そうなことは言えませんが、ラグビーの魅力のひとつはグラウンドに出た選手「ひとりひとり」にプレーの判断が任されるといふところだと思います。

よく言われることですが、ラグビーでは監督もコーチもグラウンドレベルに立つことは出来ても試合中グラウンドの中に入って行くことは出来ません。監督やコーチの声が聞こえても、実際にどうプレーするかは選手ひとりひとりが自分で判断して決めなければなりません。おそらく他のスポーツでも同じかもしれないですが、ラグビーはそれが顕著ではないでしょうか。特に、ボールを持っては瞬時に自分で状況を見て判断し、どう動かかを自分で決めます。「パスするか」「ボールをキックするか」「ボールを持って思いっきり当たりに行くか」「スペースを見つけて走りきろうとするか」などなど。自分が今いる場所がどういう位置かを考えて周りのプレーヤーの状況を見ながら、自分で判断して数えきれない選択肢の中から何をするかを自分で決めなければなりません。多くの場合、選手たちの判断は「それまでの練習や試合で培われた経験」によってなされているように思います。だからこそ選手は厳しい練習を

繰り返して、毎週のように練習試合をするのではないのでしょうか。また、周りで試合を観ている人たちは歓声を上げたりため息をついたりします。選手はその歓声やため息に流されなくて、何をどうするかを判断し続けていかなければなりません。そんな選手の姿を観ると、学ばされるのが本当にとくさんあります。

先日、私はテレビでラグビーを観戦し終えた時、ラグビーの選手たちの姿は私たちの生きる姿そのものではないのかと思われました。様々な状況を前にして最後は自分で判断してプレーを決めていく姿は、まさに私たちの生きる姿そのものだと思います。試合中、いつもたくさんの選択肢があると思います。監督やコーチの声も聞こえてきますが、判断に迷うこともあるでしょう。そんな状況の中で、最後は自分で判断して思いきってプレーし続ける姿に、私はいつも感動させられます。

私たちは生活の中で、人からアドバイスを受けたりします。迷う時は、自分から人に相談したりするかもしません。また、意見を求めてもいないのに周りの人たちの声が聞こえてくる時もあります。しかし自分が何をどうするかは、最後は自分で判断し自分で決めなければなりません。

せん。それは、生活の場がどこであっても、何歳になっても続くことだと思います。人のアドバイスを聞き、人に相談もし、周りから聞こえてくる声も耳にしながら、最後に私たちが何によって判断し、決めていくのでしょうか。何が判断の決め手となっているのでしょうか。

梅花女子大学・大学院を卒業される皆さんは、これからそれぞれの道を歩んでいかれます。これからのたくさんの人との出会いがあり、生活する場所も変わるかもしれません。しかし、皆さんがどこで働こうと、どこで学問を続けようとして、どこで生活しようとして、自分で判断して何をするかを決める機会は、これからも何度も繰り返しあるはずですよ。「自分で判断して何をするかを決める」ということは、生きることの楽しみかもしれません。しかし、それはとても難しいことでもあります。

自分で判断して何をするかを決めなければならぬ時、私たちはそれまでの自分の経験に頼ったりします。時には誰かにアドバイスを求めて相談したりもしますし、求めてもいないのに聞こえてくる周りの声に流されそうになる時もあるかもしれません。しかし最後は、自分で判断して決めなければいけません。その時にぜひ「神の愛」を思い出してみ

ませんか。人からのアドバイスを聞きながらも、時には周りの人の声に流されそうになりながらも、最後は「神の愛」を思い出してみませんか。

梅花学園は今年創立140周年を迎えました。梅花女学校は、今から140年前に梅本町公会と浪花公会という二つの教会によって誕生した女学校です。その梅花女学校の創立者である澤山保羅牧師が大切にされた聖書箇所は「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」(マタイによる福音書7章12節)です。これはイエス・キリストの言葉です。そしてこれは、梅花女子大学のスクール・モットーでもあります。梅花女子大学・大学院の皆さんなら一度は出会った聖書の言葉ではないでしょうか。人にしてもらいたいと思うことを人にもするということは、簡単に出来ることではありません。イエス・キリストによって「神の愛」を知った時に、初めて力を惜しまずに出来ることです。自分が神に愛されているということ、自分のことを神が気にかけているということ、そのことを知った人は自分のことも人のことも大切にしようと思います。「神の愛」を知った時、「神の愛」を思い出す時、人はそれまでとは違った判断をするようになります。「神の愛」は、人の

心を大きく動かします。

作マックス・ルケード／絵クリス・

シェイ／訳みなみなな『Wonderful』

(いのちのことは社フォレストブックス、2011年、4〜7頁)には

こう書いてあります。「神さまはきみが好き……。もし神さまがおさいふを持っていたならきつと中にきみの写真がはいっている。もし神さまが冷蔵庫を持っていたならきつとドアにきみの写真がはつてある」。様々な状況の中で私たちが自分で判断して答えを出した後で、神さまの家の冷蔵庫のドアに自分の写真が貼つてあるのを見たら、自分が出した答えが間違つていたことに気づかされることもあるはずだ。「神の愛」は、人が自分で判断して自分で決める際の決め手となります。また「神の愛」は、それまでの自分の判断によって出した答えの間違いを気づかせてくれたりもします。

私たちはよく「自分さえ良ければいい、自分たちだけ良ければいい」と思ってしまうがちです。そして私たちは自分だけのことを考えて、自分たちのことだけを考へて判断して行動し、神が私たちに期待していることとは真逆のことをしてしまいがちではないでしょうか。また、「自分なんて、いてもいなくてもいい」

と思わされることがあったり、人からそう評価されることもあるかもしれません。そして自分なんてどうなつてもいいと思つて何も考えずに行動して、自分のことも人のことも大切に出来ない時もあるかもしれません。だからこそ私たち、「神の愛」をいつも忘れずにしっかりと携えて何をどうするかを決めていければと思います。人のアドバイスを聞きながら、周りの声に流されそうになるながらも、最後は「神がこの自分のことを愛し、いつも気にかけてくれている」ということを思い出しながら、どんな言葉を口にするか、何をしていくかを決めていければと思います。そして迷いながらも、最後は「神の愛」を思い出して、思いきつて生きていきたいと思えます。

私たちひとりひとりの人生は、世界でひとつしかない大切なものがあります。その人にしか作り出せない人生があります。その、世界にひとつしかない私たちの人生を「神様がこの自分のことを愛し、いつも気にかけてくれている」ということを思い出しながら、様々なことを自分で判断して決めていけたらと思います。

「神の愛」による判断は、時として多くの人がしない判断かもしれませんが、また、「神の愛」を思い出して判断して行動した時に、人の「歎

声」ではなく人の「ため息」が聞こえてくる時もあるかもしれません。しかし、そんな人の歎声やため息に流されないで、神が私たちに期待している判断をしていきたいと思えます。

私たちがこれから過ごすそれぞれの場所ので、「神の愛」を思い出し出すことの出来ないものを作り出しなければと思います。

梅花女子大学・大学院を卒業される皆さん、ぜひ、日曜日は教会で聖書を読んで賛美歌を歌つて「神の愛」を思い出しませんか。きつと、自分を見つめ直して新しく歩み出せますよ。



日本基督教団浪花教会

「梅花学園140年のあゆみ」

―学園の歴史の基礎を創った5人のエレガントな人々―

梅花学園総務部付資料室 安田 行秀



梅花学園は2018年1月18日に創立140周年を迎えます。その4日前という記念すべき日にチャペル・アワーで皆さんにお話できるということを大変光栄に思います。140年という大変長い年月ですが、振り返ってみますと丁度半分の70年前、1948年という年に梅花高等学校が開設し、その1年前に梅花中学校が開設、その1年後にのちほど紹介します実生先生が学園長に就任され、2年後には梅花短期大学が開設されるといふ本学園が新しいスタートを切った時期だったことに気が付きます。1941年に太平洋戦争が勃発し、1945年に終結、戦前とは全く違う民主的な教育基本法・学校教育法が1947年に公布され、新学制による梅花中学校、梅花高等学校の発足となるのですが、



こういつた時代の変化に対応できたのも1878年に土佐堀で創立した梅花女学校から、70年間の教育機関としての蓄積があったからにほかなりません。その70年間に梅花の歴史の基礎を形成できたのはここでご紹介する成瀬仁蔵先生、コルビー宣教師、上代淑先生、中井終子先生、実生十吉先生の5人の方々の方々の並々ならぬ努力と女子教育に対する強い思いによるものです。

まず成瀬仁蔵先生についてお話します。成瀬先生は創立者の澤山保羅先生とともに開校準備から運営までの実務を取り切った梅花女学校の創立メンバーの一人で、教員の経験があることから、国語・漢文の教科の担当だけでなく、教務やその他学校の雑務をすべて担当して孤軍奮闘の活躍をされました。梅花女学校の学校としての基礎は成瀬先生によって形作られたと言ってよいでしょう。その経験をもとに新潟でも女学校を設立され、その後東京で「日本女子大学校」を創設されました。成瀬先生は1858年に山口県吉敷村赤田で生まれましたが、澤山先生と同郷で6年後輩になります。5歳の時に澤山先生も通っておられた吉敷藩の郷校である憲章館に入り、漢学の勉強をします。17歳の時に山口県教員養成所に入所して一年で卒業し、小学校の教員になりました。1877年の夏に、アメリカ留学から帰ったばかりの澤山先生と運命的な出会いをします。山口県で小学校の教員をしていた成瀬先生の前に、アメリカ留学から帰ったばかりの澤山先生が現れて「人生の問題解決の鍵はキリスト教にあり」と論じられた成瀬先生は強く共感し、その秋には教員を辞めて大阪に出て来られます。11月には浪花教会で澤山先生から洗礼を受けて、翌年1878年の梅花女学校の設立に参画されることになります。梅花女学校は、日本人の信

徒により運営されている梅本町公会と浪花公会のもとで設立されているので、アメリカの宣教師団体や外部の人からの資金援助は受けていませんでした。生徒が増え始めてくると教室が足りなくなり校舎の建築費などが必要になり、やむを得ず外部の資産家から援助を受けることになったのですが、成瀬先生は信徒以外の援助は受けないという自給学校としての主張を貫き、1882年に梅花女学校を退職してしまいます。キリスト教の布教に専念することになった成瀬先生は、奈良の郡山教会で按手礼(牧師になるための儀式)を受けた成瀬先生は新潟に赴任し、新潟教会の牧師になります。新潟の地でも教育の面で大変遅れていると感じ、新潟女学校を開校して校長に就任し、また要請があり男子校北越学館の開設にも参画します。しかし新潟は大阪とは環境が違いすぎ、思うように運営がうまくいかず力の限界を感じた成瀬先生はアメリカ留学を決心します。1891年にアンドーパー神学校に入学し、社会学者タッカーに師事し、社会的福音、社会改良運動の考え方に強く影響をうけました。翌年クラーク大学に移り女子教育について本格的に研究し、その後各地の女子大学や社会事業施設を見学して、1894(明治27)年1月に帰国します。その時梅花女学校では校長を探しており、3月に校長に

就任しています。アメリカで学んだ最新の知識を生かして専門科に商業部を設置し、経済学、外国商業通信、速記といった時代の最先端の教育を行いました。成瀬先生はこのような改革をもとに女子大学校設立へ進もうとしましたが、周りの賛同をえることが出来ず校長を辞任し、女学校も退職し、独自で女子大学校設立運動を始められます。その結果大同生命創立者の廣岡浅子氏の援助を受け、廣岡氏の紹介で時の政財界の大物の援助も得られて、1901年に東京目白に日本女子大学が開校されます。

次にコルビー宣教師についてですが、梅花女学校創立の翌年1879年に女学校の礼拝と教育のためだけの専任宣教師として赴任されました。コルビー宣教師は1847年ニューハンプシャー州マンチェスターに生まれて、17才の時に洗礼を受けられたのですが、その時に神様から「外国の地で奉仕しなさい」という声を聞かれたそうです。マサチューセッツ州のマウントホリヨークカレッジという現在は全米のトップクラスの女子大学の前身であるマウントホリヨークフイメールセミナーに入学し、看護学を専攻されます。マウントホリヨークでは宣教師としてのトレーニングも受けました。卒業後は看護学を教えながら、家庭伝道活動をしたり、ヨーロッパ旅行に出かけたりと充実した生活を

送っていました。しかし1878年31才の時に神様の声に従って、アメリカンボード(ABCFM)に宣教師になるための書類を提出し、大阪の梅花女学校への赴任を命じられます。翌年1879年に赴任され、女学校の女学生に接するうちに日本女性が

すばらしい素質をもっているのに、その地位がアメリカに比べて極めて低いことに憤慨され、日本女性の意識向上のために梅花女学校の教育に一生を費やされることになりました。1916年までの37年間礼拝と英語担当教員として不安定な草創期の女学校を支えて、澤山保羅、宮川経輝、三宅荒毅、成瀬仁蔵、長田時行の5代の校長を助けられました。退職の翌年1917年に亡くなられて神戸の外人墓地に眠っておられます。

梅花女学校の開設に協力した上代知新（かじ）新牧師の長女で1879年梅花女学校小学科に入学した上代淑先生についてお話しします。上代先生は梅花女学校本科に進学され1889年に卒業されて、岡山の山陽英和女子学校に教員として就職されました。4年間勤務された後に退職し、コルビー宣教師の学ばれたマウントホリヨークカレッジに留学されます。4年後に卒業され、すぐに山陽英和女子学校に再就職されておられます。マウントホリヨーク創立者のメリー・ライオンの「誰も行くことと思わない所に行きなさい、誰もしようと思わないことをしなさい」という言葉が

ありますが、上代先生はその言葉通りに東京の大学から誘いがあつたにもかかわらず岡山に戻られたのです。後に山陽高等女学校校長になられ、1958年には岡山市の最初の名誉市民に選ばれておられます。

梅花女学校は1908年に土佐堀から北野に移転し、そのうち梅花高等女学校が新設されます。高等女学校に英語の教育だけではなく、国語・漢文の教育も充実しなければならぬと1919年に招かれたのが、中井終子先生でした。中井先生は大阪で町人により創設され町人に開放されていた異色の学問所である懷徳堂学主(校長)の末裔として、漢詩文や東洋史、国文和歌を習得し、国語・漢文に深い造詣を持つておられます。中井先生のご尽力もあり1922年には梅花女子専門学校が設立され、英文科、家政科とともに国文科も関西地区での優秀な生徒の集まる学校として高い評価を得ることができました。そのため生徒数も

激増し、北野の校舎が手狭になり、1926年に高等学校、女子専門学校は豊中に移転し、ますます発展していきます。中井先生は残念ながら1936年に定年退職されました。1941年に始まった太平洋戦争のなかで、キリスト教主義学校である梅花は苦難の道を歩みますが、教職員の献身的な努力により、無事終戦を迎えることができました。学制改革により梅花高等女学校は、19

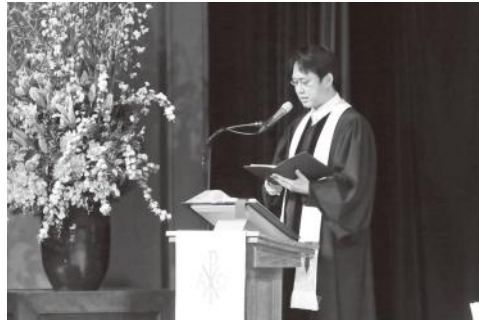
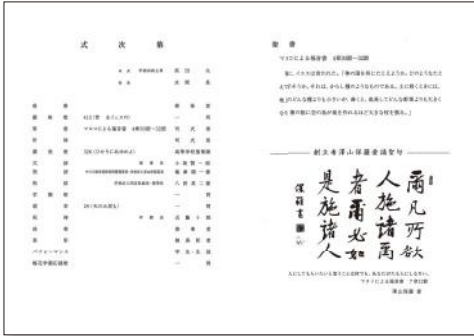
47年に新制梅花中学校、1948年に新制梅花高等学校に継承されました。梅花女子専門学校はその後進として英語科を設置した単科の梅花短期大学となりました。その梅花短期大学の初代学長が実生すぎ先生でした。実生先生は兵庫県津名郡五色町(淡路島)の材木商の8人兄弟の4女として生まれました。五色町の町長さんが小学校でアメリカに行った話をされたのを聞いて海外に興味を持ち、いつか自分もアメリカに行きたいと心に誓います。そのため大阪に出ることにして大阪の叔父さんの世話になり、郵便局で働くことになりました。郵便局員から近所の浪花教会という所で、無料で英語が勉強ができるというのを聞き、通い始めます。実生先生は熱心に勉強して、梅花女学校から来ておられたコルビー宣教師とも親しくなります。

コルビー宣教師は実生先生の勉強熱心さに打たれて、梅花女学校の事務職員として働きながら女学校の授業にも出て勉強できるように手配されます。向学心の旺盛な先生は4年で女学校を卒業して、さらに神戸女学院専門部英文科に進まれ、卒業後は神戸女学院で教鞭を執られて1944年まで勤められます。1916年にはアメリカのミルズカレッジに留学し、アメリカに行くという子供の頃の夢を実現されました。1921年にはミシガン大学で心理学の博士号を授与されておられます。太平洋



梅花学園創立140周年記念式典

皆様の祈りに支えられ、2018年1月18日(木)に
 梅花学園は創立140周年を迎えました。
 創立記念日には、梅花女子大学茨木ガーデンキャンパス澤山記念ホールにて、
 817名がつどい梅花学園創立140周年記念式典を開催いたしました。



戦争後、梅花学園を復興できるのは
 実生先生しかおられないということ
 で1949年に第8代梅花学園長に
 ご就任いただきました。1950年
 には梅花女子専門学校英語科の後身
 としての梅花短大設立に尽力され、
 初代学長に就任されました。戦後梅
 花学園が新たな形でスタートし、現
 在まで発展することができたのは、
 実生先生の力によるところが大きい
 と言えます。

1964年に田中格太郎、とらご
 夫妻が寄贈していただいた茨木の地
 で梅花女子大学が開学します。20
 10年に看護学部(看護学科)、心理
 学部(心理学科・こども学科)が設置
 され、2012年には食文化学部を
 設置しています。2015年には口
 腔保健学科新設に伴い、看護学部は
 看護保健学部(名称変更)されまし
 た。「チャレンジ&エレガンス」の
 スローガンのもと「他者への愛と奉
 仕の精神を備える自立した女性の育
 成」を目標に梅花女子大学はこれか
 らもますます発展していきます。梅
 花の基礎づくりのためにご尽力いた
 だいた5人の方々をご紹介します
 が、その方々の強い思いを受け継い
 でいけば梅花学園全体も150年
 に向けて更なる飛躍を遂
 げていけるに違いあり
 ません。



「知能に重い障がいを持つ方々の施設」

「止揚学園を訪問して」

看護学科1年生 難波 悠・喜多 友里奈

8月22日、滋賀県東近江市にある知能に重い障がいをもつ方々が暮らしている止揚学園を訪問しました。そこで私は生きていく上で大切なものを学びました。

止揚学園はトンボや鳥の声、川や森の音に包まれた自然豊かな場所に建っています。新館のおがたホールには象や花の絵が描かれていたり、食堂や台所、洗面所、風呂場はカラフルなタイルで飾られていたり、居間には明るい壁紙が貼られていたりしました。その中でも、トイレが一番印象に残りました。止揚学園では「生きる本質がある部屋」と呼び一番大切にしている場で、止揚学園の「心」だそうです。どこにいても止揚学園を感じることができるので、独特の明るく朗らかな雰囲気に含まれた気がしました。

お昼には昼食を皆さんと一緒に頂きました。食前には歌を歌い、今日のメニューを確認します。食後には讚美歌を歌い、止揚学園で作られた歌を歌いながら一緒に踊りました。近江牛のサラダや冬瓜のスープなど地元食材を使った料理はとても美



味しかったです。

止揚学園で暮らしている方は自分の出来ることを役割として進んできていました。洋服を畳んだり、聖書を運んだり、食事を運んだり、歌ったり、踊ったり出来ることはひとそれぞれ違うけど、みんなが居て支え合う事がとても大切なんだと思いました。

私は誰にも迷惑をかけないように早くひとりで生きていけるようになりたいと思っています。しかし、止揚学園を訪問して仲間がいることや支え合う

ことの大切さを学んだので、自分の得意な事は伸ばし仲間を支え、苦手な事は仲間に支えてもらい頑張る事の出る人になりました。

小梅祭 学生礼拝

「隣人を探して」

こども学科3年生 磯崎 鈴



みなさんは「善きサマリア人の法」という法律をご存知でしょうか。この法律はアメリカやカナダで施行されている、聖書の教えを基にした法律です。どういうものかというところ、例えば、道を歩いていてふと横を見ると倒れて心臓が止まりかけている人がいるとします。その時心臓マッサージを施して蘇生を試み、その上で倒れた人が亡くなったとしても、助けようとした人が罪に問われることはないというのがこの法律です。私たちの感覚としてはそもそも善意で死にかけている人を助けようとしているのだから、それで罪に問われるということ自体が言語道断というように感じるかもしれません。けれど、この例えに出たきた蘇生を試みた人は、医療知識も何もない普通の人です。死にかけている人

かもしれません。けれど、この例えに出たきた蘇生を試みた人は、医療知識も何もない普通の人です。死にかけている人

に対して自分が施す手当は本当に有効なものかどうかということに分らないまま、手当に臨んだという事は、最悪手当がマイナスに働いて相手を死に至らしめるというより悪い結果状況を悪くしてしまうということにつながってしまう可能性もあるわけです。「善きサマリア人の法」は、そういった可能性を加味した上で、善意に基づいた手当ならどう作用しても罪には問わないという法律なのです。現在日本では法律になっていませんが、ウイキペディアによるとこれを施行するかどうかが議論の上で決まっています。さて、この「善きサマリア人の法」ですが、死にかけの人の手当という非日常的で、例えこれが日本の法律だったとしても身近なものとは感じられないかもしれません。けれど、もしこれが死にかけの人ではなく、もっと些細なことでも困っている人の場合だったらどうでしょう。

これまた例え話ですが、ある日A子さんは授業を受けていて問題を解いていたのですが、すごく時間のか

かるやり方をしていました。そのやり方は、時間はかかるけどすごく単純で、まああつこつ地道にやっていたわけですが、横に座っていた友達はやり方は難しいけれど早く解けるやり方を知っていました。彼はA子さんがちまちまやっているのを見て、恐らく親切心から自分の知っている早い方法を教えてくれました。けれどその方法がそもそも難しいのに加えて、A子さんはあまり察しがない方ではなかったので彼の説明を理解出来ませんでした。けれど教えてもらった手前その方法でやらない訳にもいかず、よく分からないままやっている問題と解き終わらないまま授業は終わってしまいました。友達に親切心からA子さんにより良いと思われる方法を教えてくれたのですが、結果としてそれは良い方向に作用しませんでした。もしA子さんがなくて違う人に同じようにアドバイスしていれば良い結果に繋がったかもしれません。また友達は先生ではないので、必ずしも彼の説明が明快で正しいものだとは限りません。けれど、聞く人によつたら彼の説明は先生がするものより分かりやすいものかもしれないのです。このようにどう結果に作用するか分からないものを良いとするか悪とするかは非

常に難しいことです。もし、私に実際に道端で死にかけの人がいたら、絶対に自分で手当しようとは思いません。救急車を呼ぶくらいは当然ですが、何が起るか分からないので自分の判断で処置しようとは思えないのです。

よくテレビで、例えば喉にうどんを詰まらせたおじいさんを近くにいた家族連れのお父さんが処置して助けたとか、突然意識不明になった幼児を近くにいた女性が助けたとか、そういったことを紹介しています。これは相手が助かっているからこそ美談として終わりになるわけですが、もしその処置が間違っていて相手がなくなったりしてしまったら一転して罪に問われる可能性が出てきてしまいます。今時はネットも発達していますから、それを見たネットユーザーたちに好き勝手言われるわけです。そんな時代に、もしかしたら助けられるかもしれない人を助ける勇気を後押しするのが「善きサマリア人の法」です。基になった聖書で言われている、真の隣人になるチャンスを与えてくれる法律です。この真の隣人というのは助けられた人にとつての助けてくれた人のことです。助けてくれた人が例え敵であるはずの相手であっても、助けられた人に

とつては隣人のように親しみと感謝を持てる相手になるという感じのことです。良い結果に繋がるかもしれない可能性に賭ける勇氣というものには誰にでもあるものだと私は思っています。A子さんの例え話に出てきたような些細なアドバイスだつて、私はなかなかしようとは思えません。もしかしたら相手は余計なお世話と思っているかもしれないし、かえつてそれがマイナスに働くかもしれないからです。私は自分で保身に走りがちタイプだという自覚はありますし、そんな自分が矮小に感じられて嫌になることもあります。「隣人」になり得る機会を自ら潰しているのだと思うことも多々あります。でも、保身というか石橋を叩いて渡る気質というのは日本人に結構ありがちなのではないのでしょうか。そのためそうだから、気の置けない仲の友達がいる人はすごく尊敬します。そういった人間関係を築くにはそれなりの過程を踏んでこないといけないものだからです。お互いの良いところ、悪いところをちようどいさじ加減で見せ合える人つてそうそういないと思います。相手にとつては何気ないことでも自分にはショックだったり、自分にとつてはたいしたことじゃなくても相手にしたら嫌な

感じに捉えられる事柄だったり、少しの違いでもあつさり人間関係は崩壊するものです。

話の入りは法律でしたが、私は聖書にある「善きサマリア人のたとえ」は自分から積極的に動くことで最終的には信頼を勝ち取るという風に解釈しています。失敗は成功の元ともいうように、信頼を得るまでには当然上手くないかないこともあります。親切をおせっかいと取られることもあるだろうし、どんなに積極的に動いても全てが相手の心の琴線に触れるとは限りません。人間関係も勉強と同じで少しずつの積み重ねが大事なのではないのでしょうか。失敗を許し合える関係、それが隣人なのだと思います。そんな素敵な関係をすでに築いていらつしやる方も、まだこれからという方も、一度結果を考えずに人に優しくしてみてください。つたらどうだろうかと思いません。もしかしたらそれが隣人への第一歩かもしれません。



宗教部一年の歩み

2017年度前期には澤山記念館の改修工事が行われ、その関係で、5月22日(月)～6月26日(月)まで会場をD401教室に移して、礼拝の灯をともし続けた。そのような時であったが、聖歌隊を新たに立ち上げることも成功し、後期には多くの参加者と共にチャペル・アワーの営みを継続することができた。宗教部の2017年度はチャレンジの一年であったが、多くの恵みを与えられた一年でもあった。

4月 聖書を読み祈る「オリブのつどい」

4月11日(火)より、毎週講義期間中の火曜日に教職員のための「オリブのつどい」、水曜日は学生のための「オリブのつどい」をお昼休みに宗教部事務室で開催した。聖書を皆で輪読し、祈りの時間を持った。

6月 教職員研修会、建学の精神プログラム

6月7日(水)午後4時20分からF棟701教室で、元同志社大学神学部教授、日本基督教団同志社教会員の本井康博先生をお招きして教職員研修会・建学の精神プログラムにおいて「建学者の志―澤山保羅、成瀬仁蔵、そして新島襄」と題してご講演頂いた。



青梅の収穫と販売

今年も学内で実った青梅を有志の教職員・学生ボランティアで収穫し販売した。今年は6月上旬に収穫した。売上金の33,050円は、前期献金に充当した。

薔薇育成ボランティア募集

F棟と図書館前坂の登り口左側に植えられたアンネの薔薇の育成ボランティアを募集した。毎週水曜日の2講時に宗教部に集合し、植栽の手入れをして美しく薔薇を咲かせたり、またこの薔薇の花弁を用いてポプリを作ったりと、「アンネの薔薇」を中心とした繋がりやの輪が広がっている。



8月 「聖歌隊デイ」を開催

8月8日(火)に聖歌隊の練習と親睦のための「聖歌隊デイ」を澤山記念館で開催した。午前中は聖歌隊の合同練習を行い、午後3時から3時40分まで、礼拝堂でサマー・チャペル・アワーを行った。日本基督教団浪花教会牧師の山口恒先生に「呼びかけの声を聞いて」と題してお話し頂いた。この礼拝で聖歌隊は「シヤロンの花」を合唱した。午後5時から澤山記念館一階南側ロビーで懇親会、その後、花火を見ながら交流を深めた。



「止揚学園」訪問

今年、8月22日(火)に、教職員・学生の合計6名で訪問した。お昼に賛美歌を皆で合唱した。

10月 宗教改革500年記念礼拝の開催

10月30日(月)に、日本基督教団大阪教会牧師の岡村恒先生を澤山記念ホールにお招きして宗教改革500年記念礼拝の開催



00年記念礼拝を行った。「ここに愛があります」と題しての奨励を頂いた。

11月 小梅祭「学生礼拝」

11月2日(木)午後11時より「学生礼拝」を礼拝堂で行った。お話しは「隣人を探して」と題して、こども学科3年生の磯崎鈴さんが担当した。司会はこども学科3年生の木村友衣佳さん。奏楽は水間泉先生。聖歌隊による「シヤロンの花」の合唱があった。



アドベント点灯式

11月27日(月)午後5時50分から6時20分まで、学生会館前でアドベント点灯式を行った。こども学科3年生の松永七海さんのキープボードによる前奏で聖書朗読の後、宗教主事の高田太先生の聖書朗読の後、学長・宗教部長の長澤修一先生が点灯された。聖歌隊による「もみの木」の合唱があり第一部は終了、その後、第二部を澤山記念館一階北側ロビーに移動して行った。クリスマスソングを歌いその後、礼拝堂の右側控え室で懇親会を行った。多くの参加者を得て、恵まれた時を過ごすことができた。



12月 大学 アドベント礼拝

12月11日(月)午後1時よりアドベント礼拝を礼拝堂で行った。講師は日本基督教団梅花教会牧師の後藤聡先生、「お言葉どおり」と題しての奨励があった。

クリスマススイピング2017 クリスマス礼拝

12月16日(土)にクリスマススイピング2017が開催された。午後2時から3時までの間、礼拝堂でクリスマス礼拝が行われた。奏楽は水間泉先生。早稲田摂陵高等学校ウインドバンドのアンサンブル演奏の後、近藤十郎学園長から「愛と平和・クリスマスの祈り」と題しての奨励があった。

大学 クリスマス礼拝

12月18日(月)午後1時より大学のクリスマス礼拝を澤山記念ホールで行った。奏楽は水間泉先生。司会は高田太先生。キャンドル点灯は食文化学科1年生の石塚舞さん、小森沙耶香さん、久下真奈さんの3名が、聖書朗読は食文化学科1年生の安達咲月さんと大川七海さんが担当した。近藤十郎学園長より「宝の箱を開けて」と題しての説教があった。受付とクリスマス献金の奉仕はこども学科3年生の磯崎鈴さんと木村友衣佳さん、食文化学科1年生の小谷琴音さんが担当した。

1月 創立140周年記念式典

1月18日(木)午前10時30分から澤山記念ホールで梅花学園創立140周年記念式典が開催された。817名の参加者を得て盛況の内に終えることができた。梅花学園応援歌の披露も行われた。



3月 卒業礼拝

大学・大学院の卒業礼拝を3月15日(木)午前9時15分より、澤山記念ホールで開催する。「神の愛を思い出して」と題して日本基督教団浪花教会牧師の山口恒先生から説教を頂いた後、学生・教職員の聖歌隊リトル・ハーモニーオリーブにより「旅立ちの日に」の合唱がなされる予定である。



澤山保羅先生百天記念礼拝ならびに澤山保羅先生墓前祈祷会

3月27日(火)午後1時から2時まで、澤山保羅先生百天記念礼拝を礼拝堂で行った後、大阪市設南霊園に移動し、午後3時15分から澤山保羅先生墓前祈祷会を行う予定である。

2017年度

チャペル・アワー



「チャペル・アワーへようこそ」 本学宗教主事 高田 太先生

日本で初めての牧師が梅花を作ったのがすこいなと思えました。教会がお金を出して梅花を作ったことがとても重要だと聞いて、他の学校とは違うというのを覚えておかなければならないなと思えました。家は仏教だけどキリスト教からたくさん学ぶことができるから、しっかりと学びたいなと思えます。ストールの色が行事などによって変わることにも驚きました。毎回色を楽しんでみたいなと思えます。スクール・モーターである新約聖書の7章12節を忘れずに、4年間過ごしていきたいと思えます。是非近くの教会の礼拝に行ってみようと思えます。

「君に届け」

日本基督教団千里聖愛教会牧師 川江友二先生 SNSに関連つけたお話だったので自分に置き換えて聞いていた。題「君に届け」の意味が最初分からなかったけれど聖書や賛美歌を通して、自分を認めることを理解できたのではないかと思う。

「声を合わせて讃美の歌を」

川西合唱連盟理事長、能勢口教会奏楽者 堀田啓子先生 賛美歌が私たちが昔から聞いたことのある曲だったとは思っていませんでした。歌うことが好きなもので今日は本当に楽しかったです。アルト、メゾ、ソプラノにわかれて歌った曲は特に印象的でした。

「神様はいつまで」

日本基督教団浪花教会牧師 山口 恒先生 自分のイヤな部分(ワロコリ)も神様は愛してくださる、という話かなと思ったのですが、使命やすべきこと(ワロコリ)を与える時は、良いもの(ボン酢)と一緒に与えてくださるということ、ごく納得しました。辛いことは日常の中でたくさんありますが、乗り越えられない試練はお与えにならないので、頑張ってみようと思いました。

「付度」

日本基督教団阿倍野教会牧師 山下壮起先生 私は神さまからの試練をすつと逃げて、楽な方に自分を明るくよそおっています。自分の思いはあるけど言えません。それは、自分じやないのかなと思うけど、それも含めて、全て自分だから試練に立ち向かい自分を成長させ、友人、家族にとって「良い人」になればと思います。

「翼の折れたエンジェル」

日本基督教団千里聖愛教会牧師 川江友二先生 家族や友人など色んな人に支えられ、また自分が支えて生きていくのだなと思ったり、また自分が大切にしていること、思った。私も誰かの天使となり、誰かを支えることができたらいいなと思ったり。

「わきまえること」

日本基督教団浪花教会牧師 山口 恒先生 1歳の息子さんは絶対に可愛いだらうなと思えました。娘さんのためにすごい気合いを入れていたのが分かりました。いいお父さんだと思えていました。私はいいことをしていてそれが全て順調

にしている時にいつも絶対、最後に悪いことがあると思います。そうなった時、自分に怒りがわくし、そのものに對して怒りがわきます。これからはそのようなことがあっても怒らず落ち着きたいと思えます。

「言いたいこと言えない」

日本基督教団阿倍野教会牧師 山下壮起先生 私の夢は精神科の看護師になって自殺者を減らすことです。「言いたいことも言えない」から、悩み、苦しむ、死の道だけいかみえなくなってしまう時に、生る道を作る看護師。自分が目指した理由にとても似たおはなして、とても驚きました。聖書にも、同じようなことが書かれていることを知って自分の考えに自信が持てました。

「クローデットの告白」

日本基督教団阿倍野教会牧師 山下壮起先生 人種差別って本当におそろしいことだと思いましたが。クローデットさんはすごいことをしたのに15歳で未婚のままに子どもを妊娠したということだけ残るのは本当に違うなと思いました。道徳は教えるものではないと思います。でも政府が嘘などをつくる多教派によって道徳を決めるのではなく少数派の意見を聞いてこそ、本当の道徳だと思います。昔から男女差別があったのは本当に最悪だと思います。

「神様から」

日本基督教団浪花教会牧師 山口 恒先生 ジャイアンの歌詞にもあったように、今、私がこの世の中に生まれたこと、生きていくこと、すべてすごく奇跡だと思いました。父と母が出会って結婚して、私が生まれて：感謝しています。生活している中で、ふと思つことや、なんとなく行動したことは、後で振り返ってみたらすごく大切なことだったり、良かったことだったりするので、導いてくださっているのかなと思います。山口先生、教回ではありますが、楽しんで奨励を聞かせて頂きました。ありがとうございます。

「人生にイエス」

日本基督教団千里聖愛教会牧師 川江友二先生 「アナと雪の女王」をそのままにみたことはなかったけど確かにあの映画は、ありのままを生きてるのは大切だと教えてくれていると気づかれました。自分自身の平和と考える自分もその平和があるのかどうか分からないと思いましたが。全て自分のことを否定はしないけど一人ですつと頑張るって、人に助

けてあげるといわれてからしか頼れませんでした。だからしんどくなるのになんて改められなかった。今日、やっぱり人に頼ることは必要だと感じたのでもっと頼れるようになりたいと思えました。

「澤山保羅のうた」

本学名誉教授 茂 義樹先生 澤山保羅先生の幼少期からのお話を拝聴したのは初めてだったので興味深く、最後まで、とらえることができて良かったです。特に梅花のはじまりを知ることができて良かったです。梅花生として精進していきます。そして、笑顔忘れず、接する心を大切にしていきます。ありがとうございます。

「いつまでも残るもの」

日本基督教団大阪教会牧師 本庄侑子先生 憎しみあい、罵り合う愛の関係はすごく嫌だなと思えました。役に立つ仕事、生活に就きたいと思えば思うほど自己主張が強くなってしまふのは分かっています。自己実現をしたい人が色々やっていると分かってきたら、自己実現を促すことも大事ですが他人を愛することも大事だと思います。自分のことを考えながら、他人のことを考えることは大変ですが、イエス・キリストは自分達と本当は深い関わりがあると思えます。人と人は結ばれていると思えます。いつも悩んでいる人々に話しかけ、神の言葉を話していたイエス。本庄先生は夢を叶えられなかったけど、それよりも大事な夢を見つけた姿は素晴らしいなと思えました。神さまの愛の言葉を残しておこうと思えます。

「あたたかい生命と温かいのち」

止揚学園園長 福井 生先生 今日、奨励を聞いて「てんかん発作」という言葉を初めて聞きました。前ぶれもなく発作が起こり、おさまるのに時間がかかったり、かからなかったりと非常に大変なことだと思いました。私自身、身内に障がいをもっている人がいますが、同じ人として、助け合い、もっている人が、同じ人として、助け合い、もっている人が、学んでもいいかな、いけないなと思っていました。障がいをもっている方とふれ合えたからこそ、自分たちも成長することが出来ることを学びました。



「招かれ上手に」

日本基督教団磐上教会牧師 成田いつし先生
幸福とは何かということを考えさせられました。
自分の幸福を実現することは比較的簡単やけど、皆が幸福になるにはとても難しい、又は実現不可能なわけではないかと思いました。日本は豊かな国ではあるけれど、物量的にという訳であって、国民の生活や心理的には幸福を感じている人達はあまりいないと思います。本当の豊かな国とは、幸福とは何かの答えを出すのは難しいのだからと思います。

「選択日記」

日本基督教団千里聖愛教会牧師 川江友一先生
「私は、あなたを産まれる前から知っている、だから従いなさい」と神様に言われても、もう少し自分が納得できる自分になってからじゃないと後悔してしまうかもしれない。けど、いつまでも満足する日は来ないかもしれない。結局、ありのままの自分を自分が認めることが必要なのだろうと思う。

「生きてゐる、生かされてゐる、生かして行く」

本学口腔保健学科教授、
口腔保健学科長 森崎市治郎先生
生きているということは奇跡という言葉が印象的でした。生かされている、ときいて感謝しようと思いました。わたしが生きているのは、まず親がいなくて生まれたいないし、生まれてからもいる人々に支えられているからこそ、私は生かされているのだなと思いました。ありがとうございました。

「あなただけに共(とも)に生かす」

本学こども学科教授 赤木公子先生
わたしも最近、愛を亡くしました。15年間ずっと一緒に育ってきて、私の心の支えになってくれた大事な家族でした。犬は話すことはできませんが、私は彼女からたくさん大切なことを教えてもらいました。だから、今回の先生のお話にも、たくさん共感できることがありました。あたたかいお話でした。

「神の愛は忍耐強い」

児童養護施設レバノンホーム理事長、
日本基督教団八尾東教会牧師 有澤慎一先生
私も思い通りにいかなかったら、イライラしてしまふ時があります。イライラしてたまに物にあたってしまう時があるのを、気をつけたいな感じがあつたなと思います。最近、イライラすることがあつ

ても我慢できているので、少しは忍耐強くなったかとも思います。こどもがいる親で忍耐が弱い人は虐待をしてしまうのではないかと考えます。忍耐強さは時に必要となつてきます。いつまでも忍耐が弱いとはいけないかと考えます。

「あなたもそこにいたのか」

日本基督教団東北ニュータウン教会
牧師 稲山聖修先生
私は時々、寂しくて悲しいようなひとりでいて気持ちになることがあります。しかし、一人でいてもそう思わない、感じない時もあります。それは、神さまや亡くなった祖父が私を包んでくれていると思ひました。私はおばあちゃんのお墓に行くと、いつも視線を感じます。それはいつもイエスの像の横からです。そろそろ帰ろうかと鍵を本堂に返しに行く時、ドアがとて重く感じます。まるで「帰らないで」と言われているような気分です。私の記憶では、曾おばあちゃんも亡くなってからしか会ったことがありません。一度会つてみたいですね。

「宗教改革500年記念礼拝」

「ここに愛があります」
日本基督教団大阪教会牧師 岡村 恒先生
ドイツで自分の目とわたさんの教会を見えることによつて宗教改革の軌跡を知っているからとてできる話だと思ひました。男性社会から女性進出の社会になることは、簡単ではないと思うけれど、女性進出が近年では普通であるので、そういう風な社会にした500年前の宗教改革に感謝です。

「天賦の才能」

日本基督教団南大阪教会牧師 尾島信之先生
自分と他人を比べると、自分には何もない人間のように思つてしまふ。しかし、自分ができることや能力は必ずあつてその能力を内に秘めることなど、どんどん使つて、自ら動くことが大切だと思つた。そうすれば新しい自分に出会え、新しいことなど、どんチャレンジすることが出来る。失敗をおそれないことで成長できる。成功の喜びを大きくして、人に分け与える。

「BAKA, BAKA, FOREVER」

梅花中学・高等学校教員、
梅花中学・高等学校同窓生 中村まゆ子先生
私は別・高梅花だから、女学生であつたし、今は男女差別がなくなつてきているのもあつて、あまり

女性差別を感じていませんが、設立当時は大変だつただらうなと思ひました。梅花にはたくさんさんの歌があるということをはじめて知りました。豊中に6年間通ひ、4年間茨木で学ぼうとしている今、聖書や賛美歌にふれ、たくさんさんの感性を養つてもらつてます。なので「梅花」には特別な思ひがあります。今後も、聖歌隊や学部の勉強をがんばつて楽しみたいと思ひます。

「先義後利、まず神のくにに神の義を」

映画「山重軍平」「マザーレサ」
救世軍希望館館長 前田徳晴先生
虐待は先進国特有の問題であると思つていました。だけど、昔からあると聞いてとてもびっくりしました。私の周りにも虐待されていてもは数人います。なので、身近な問題だと思つてはいたけど、もつと考へてそのような人が減るよう行動しないといけないと思ひました。今は、衣食住に困るようなこととはあまりないから、欲がたくさん出てきてしまふけど今、自分自身に生きていることを実感して感謝しなければならぬと思ひました。

「病児から培われた、揺るがぬ希望」

パンダ園保育士 佐原良子先生
私は看護師になりたいと思つているけど、病児に對して「どうしてこどもなのに、神さままで、病児になあ」とずつと思つていました。でも、今日のお話を聞いて、とても短い命だけど、生まれてくることに意味があつて、何かをするために生まれてきてきていることを知りました。私は先日病気がわかりました。そのおかげでいろいろな検査もしたし、患者さんの気持ちによりそうことができるように、辛い思いをさせてくれるように神様が手配して下さいのかなと思ひます。

「梅花のために(標準)と(な)る」

日本基督教団高槻日吉台教会牧師 小笠原純先生
3つも4つもやりたことがたくさんあるけど、二兎追うものは一兎をも得ずといふことわざがあるように3つも4つもやりたけど一つのもの育てたりできるようになつたりしないかと思ひました。今はやりたいことだらけだけど一つのものに集中したいと思ひます。そしていつか腐草みたいな草になれたらいいと思ひます。

アドベント礼拝「お言葉とおり」

日本基督教団梅花教会牧師 後藤 聡先生

「神に出来ないことは何一つない」神は人に予測出来ないものを表す。しかし我々は神を信じるにより神から愛を与えられる。梅花女子大学の敷地を寄贈してくれた田中夫妻の言葉がとても印象的でした。「神から預かったものを神へお返しすること」こども達が勉学に励むことを望まれていることを知りました。全ては祈りからはじまつていること、とても勉強になりました。ありがとうございました。

クリスマス礼拝「玉の箱を開けて」

本学学園長 近藤千郎先生
今日まで何回もチャペル・アワーを受けてきました。今度の先生が一番心に響いた気がしました。誕生したイエスに3人の博士に響いた黄金と乳香と没薬をプレゼントしたことを初めて知りました。イエスは黄金の冠ではなく、茨の冠をかぶらされ、真の王になったということを聖書の世界の授業でやったことを思い出しました。

「梅花学園創立140周年記念チャペル・アワー」

梅花学園創立140周年記念チャペル・アワー
140年に至るまでにたくさんの人々が関わつて梅花がつづいてきたことがわかりました。誰か一人でもいなくて、誰か一人が違つてをしたらこどもでつづいていかなかったかもしれません。そう考へると140年つづいてるのはすごいことだと思ひました。コルビー宣教師さんが看護師教育の必要性をとなげられたことがきっかけだと思ひました。それがなければ看護の教育はかわつていたのかも知れません。今、梅花でこうして、そして看護学を学んでいることに感謝して過ごしていきたいと思ひます。

「いつかは自由に生きられるのか」

金城学院大学文学部准教授、
宗教主事 落合建仁先生
人間って一生誰かに評価されて生きているなと思ひました。私たちがあれば単位取得のためのペーパーテストや実技試験など。働く職業によつて評価のされ方はそれぞれですが結局評価されます。いらぬ所まで勝手に決めつけ評価されます。確かに考へてみると評価されるのに疲れているかもしれません。評価を除けば自由に生きています。私はきつと評価されることばきに生きるのは無理だと思ひます。がそれ以外自由に生きています。

2017(平成29)年度 チャペル・アワー講師一覧

(敬称略)

月	日	奨励題	略歴	奨励者
4	11	チャペル・アワーへようこそ	本学宗教主事	高田 太
	17	君に届け	日本基督教団千里聖愛教会牧師	川江 友二
	24	声を合わせて讃美の歌を	川西合唱連盟理事長 日本基督教団能勢口教会奏楽者	堀田 啓子
5	8	神様はいつも	日本基督教団浪花教会牧師	山口 恒
	15	付度	日本基督教団阿倍野教会牧師	山下 壮起
	22	翼の折れたエンジェル	日本基督教団千里聖愛教会牧師	川江 友二
	29	わかまえること	日本基督教団浪花教会牧師	山口 恒
6	5	言いたいことも言えない	日本基督教団阿倍野教会牧師	山下 壮起
	12	クローゼットの場合	日本基督教団阿倍野教会牧師	山下 壮起
	19	神様から	日本基督教団浪花教会牧師	山口 恒
	26	人生にイエス!	日本基督教団千里聖愛教会牧師	川江 友二
7	3	澤山保羅のこころ	本学名誉教授	茂 義樹
	10	いつまでも残るもの	日本基督教団大阪教会牧師	本庄 侑子
	17	あたたかい生命と温かいのち	止揚学園園長	福井 生
	24	招かれ上手に	日本基督教団磐石教会牧師	成田ういし
9	25	選択日和	日本基督教団千里聖愛教会牧師	川江 友二
10	2	生きている、生かされている、生きていく	本学口腔保健学科教授、口腔保健学科長	森崎市治郎
	9	「おさなごと共に生きる」 一溢れんばかりの笑顔と愛を一	本学こども学科教授	赤木 公子
	16	神の愛は忍耐強い	児童養護施設レバノンホーム理事長 日本基督教団八尾東教会牧師	有澤 慎一
	23	あなたもそこにいたのか	日本基督教団泉北ニュータウン教会牧師	稲山 聖修
	30	ここに愛があります	日本基督教団大阪教会牧師	岡村 恒
11	6	天賦の才能	日本基督教団南大阪教会牧師	尾島 信之
	13	BAIKA、BAIKA、FOREVER	元梅花中学・高等学校教員 梅花中学・高等学校同窓生	中村まち子
	20	“先義後利”まず神のくにと神の義を 映画「山室軍平」「マザーテレサ」	救世軍希望館館長	前田 徳晴
	27	病児から培われた“揺るがない希望”	バンダ園保育士	佐原 良子
12	4	梅花のために腐草となる	日本基督教団高槻日吉台教会牧師	小笠原 純
	11	お言葉どおり	日本基督教団梅花教会牧師	後藤 聡
	18	宝の箱を開けて	本学学園長	近藤 十郎
1	16	梅花学園140年のあゆみ	本学園総務部付資料室職員	安田 行秀
	22	どうすれば自由に生きられるのか	金城学院大学文学部准教授、宗教主事	落合 建仁

◎ 宗教部編集後記 ◎

今年も新しいとびらが開かれ、梅花学園は1月18日に創立140周年を迎えることができましたこと、神様に深く感謝いたします。

梅本町教会の「梅」と浪花教会の「花」の一字を取って1878年1月7日に大阪市西区土佐堀裏町に誕生した梅花女学校、集まった生徒は15名、この日、厳かに開校式が行われました(1月18日は大阪府知事の認可を受けた日です)。信仰と希望と愛に満ち溢れた愛なる女学校の出発でした。

4月には、同志社女子大学名誉教授の近藤十郎先生を学園長に迎えて新たな歩みが始まりました。聖歌隊立ち上げにも成功し、夏には近隣の教会の牧師先生や近藤十郎学園長、同窓会の炭谷みどり会長、聖歌隊の学生と共に「聖歌隊デイ」を開催しました。夕べには、空いっぱい広がる花火を眺め、楽しい時間を持つことができました。この聖歌隊は、小梅祭やアドベント点灯式、クリスマス行事等でも活躍してくれました。

2018年度も宗教部一同団結して、新たなチャレンジに励んで参りたいと思います。